

こんなにも 海外とつながっている 私たちの生活

地球の裏側の出来事が私たちの生活に直結している。
世界に依存する日本。特に途上国との関係は深まるばかりだ。

出典：JICA「日本・途上国相互依存度調査」報告書ほか

「グローバル・イシュー」の出現

グローバル化の進展により、ヒトとモノ、モノとモノの結びつきが急速に強まったことで、地球の裏側の出来事が私たちの生活に直結するようになった現代。「グローバル・イシュー」（地球規模の課題）という人類共通の新たな脅威も、こうした背景から生まれている。

その一つが「感染症」だ。人間や動物、モノに伴って、ウイルスなどの病原体もボーダレスに移動するため、感染者が発生しても病原体を水際で防ぐことが容易でなく

なった。2009年4月、メキシコで発生した新型インフルエンザが世界中に瞬く間に広がり、日本でも感染者が確認されたことは記憶に新しい。また、感染症が消滅したといわれる国でも、再びその危険にさらされるようになってしまった。

さらに近年、最大の脅威とされるのが、気候変動などを含めた「地球環境問題」。大気、水、土、生態系の変化が国境を越え互いに結び付いて生じている環境問題は、1国の対策だけではどうすることもできず、国際社会が一丸となって取り組まなければならぬ課題となっている。いち早く解決を図っていくためにも、

「先進国が、資金も技術も乏しい途上国の成長や環境配慮、感染症対策などをサポートすることで、世界共通の脅威を取り除いていく必要があります」と大坪滋・名古屋大学大学院教授。感染症や環境問題の他にも、食料安全保障や紛争・平和構築、資源・エネルギーなど、多様化・複雑化し続ける「グローバル・イシュー」。このグローバル・イシューの課題解決に向け、日本もさまざまな協力を展開している（主な事例は10ページ以降を参照）。

高まる依存度 日本に求められること

こうした世界共通の課題に、共に立ち向かうための協力はもちろん、私たちに「当たり前」の暮らしをもたらしてくれる途上国を支えることも、日本人の責務だ。特に、地理的にも近いアジア諸国との間では、東アジアを中心に国境を越えたモノづくりのネットワークが広がっており、ヒト・モノ・カネ・情報の「一大交流圏」が形成されている。その中で、日本とアジア各国との依存度は計り知れない。またアフリカとも、資源・エネルギーや漁業などのさまざまな面で依存関係が深まっている。

そして、忘れてはならないのが、中国、インド、ベトナムのようにグローバル化の波に乗り経済

成長を遂げた国がある一方で、サハラ以南アフリカなど世界経済から取り残された地域があること。また、経済発展が進んだ途上国であっても、国内格差が増大し、社会的な不満が渦巻いているのだ。

途上国の存在がなければ、崩壊すらしかねない日本。その中で私たちは、国内問題ばかりに目を向け、他国で起こっている出来事に無関心でいいはずはない。途上国の今後が、世界、そして日本の明日を左右するといっても過言ではないのだ。

良い意味でも悪い意味でも、競争性を高め、政治・経済、社会を動かし、相互依存関係を深め続ける世界。そして、もはや私たちは、途上国をはじめとした他国の支えなしには生きられない。この「現実」をどう認識していくべきか。今、日本の立場が問われている。

COLUMN 日本の貢献度、5番目

日本のODA（政府開発援助）実績は1989年、世界第1位に。その後、93～2000年の8年間は、毎年増額を続けトップを走ってきたが、01年以降、厳しい国家財政を反映してODA予算は縮小傾向をたどり、09年は第5位にとどまっている（支出純額ベース、暫定値）。ODAだけで見た場合、世界、そして途上国に対する日本の「貢献度」は、低下していると言わざるを得ないのが現状だ。

1位	アメリカ
2位	フランス
3位	ドイツ
4位	イギリス
5位	日本
6位	カナダ
7位	イタリア



生きる上で不可欠な衣食住。その途上国への依存度は年々高まっている。最も依存度が高いのはプロパンガス、そのほかにも生活に身近なテレビゲームや衣服などは50%以上を途上国から輸入している。また、食料自給率が約4割と低い日本。日常食を具材別にみると、天ぷらそばのようにその多くが輸入品。国際貿易の拡大とともに、日本の食卓に上る料理も多様化し、普段何気なく口にするものにも、途上国から輸入したものが多くなっている。

◆天ぷらそばの具材別輸入元

えび 輸入率 45.1%	たし 輸入率 9.7%	卵 輸入率 0.6%
ベトナム 21.2%	中国 35.0%	ブラジル 23.8%
インドネシア 20.1%	インドネシア 17.4%	アメリカ 23.4%
インド 11.2%	タイ 10.8%	中国 20.2%
タイ 11.2%	ブラジル 9.4%	台湾 16.1%
中国 6.9%	ペルー 7.6%	ドイツ 15.7%
ロシア 5.4%	香港 5.7%	その他 0.8%
その他 24.1%	ベトナム 4.5%	
	ミャンマー 4.4%	ねぎ 輸入率 4.4%
	その他 5.2%	中国 93.1%
そば(実) 輸入率 97.3%		オーストラリア 2.8%
中国 63.8%	小麦 輸入率 100%	その他 4.1%
アメリカ 30.8%	カナダ 0.2%	
カナダ 4.5%	アメリカ 99.8%	
その他 0.9%		

プロパンガス、電気機器、衣類が途上国に高依存

◆途上国依存度が50%以上の消費支出品目

90%以上	プロパンガス
80%以上	テレビゲーム
70%以上	女性用ファンデーション
60%以上	セーター、手袋、乳児服、掛・置時計、下着、靴下、パジャマなど
50%以上	ワイシャツ・ブラウス、シャツ、テレビ、スポーツ用品、パソコン、背広服、ストッキング、コート、スカート、毛布、通学用かばんなど

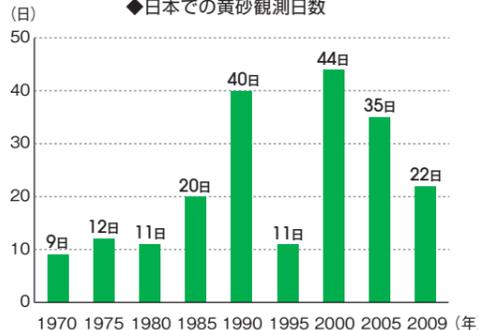
衣食住

日本食でも具材の多くが外国産

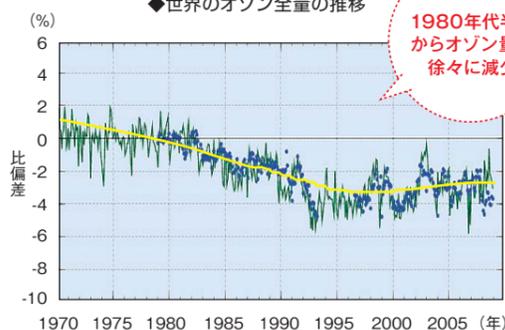


気候変動、オゾン層の破壊、酸性雨、熱帯林の減少、砂漠化・土壌侵食、野生生物の種の減少、海洋・河川の汚染など、人間の生活や経済活動がもたらす問題が深刻化している。日本が木材を輸入するインドネシアでは、1990～2005年の間に約6,000万ヘクタールの森林が消失。毎年春先になると日本にも飛んでくる黄砂の原因である中国の砂漠化も進んでいる。さらに、有害な紫外線から私たちの健康を守ってくれるオゾン層の破壊が、エアコンや冷蔵庫などで冷却のために利用されるフロンガスの増大により進行している。

◆日本での黄砂観測日数



◆世界のオゾン全量の推移



1980年代半ばからオゾン量が徐々に減少

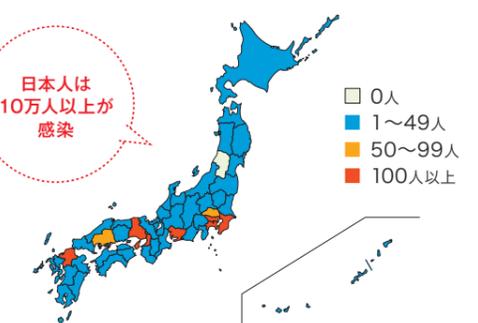
環境

1990年以降、黄砂の飛来が顕著に

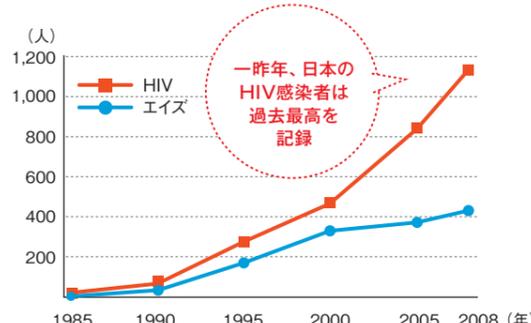


空気、動物、虫などを媒介して病原体が体内に増殖、最悪の場合は死に至ることもある感染症。ヒトやモノが行き交う現代にあって、感染症は国境を越えて広がっていくもの。日本をはじめ、あらゆる国・地域がその危険にさらされ、1国だけの問題ではなくなっている。新型インフルエンザは、136カ国・地域にまで感染者が拡大。また、日本とはあまり関係ないように見える三大感染症（HIV／エイズ、マalaria、結核）のうちHIV／エイズは、国内での感染者が一貫して上昇しており、感染拡大に歯止めがかかっていない。

◆新型インフルエンザ 日本の流行状況（2009年7月）



◆日本のHIV感染者数とエイズ患者報告数の推移



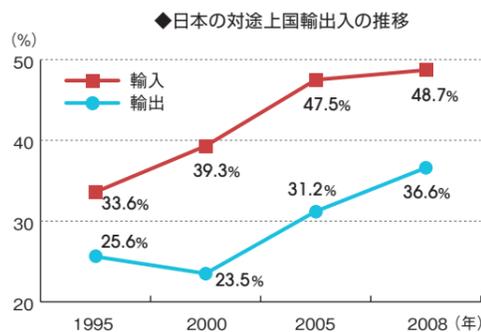
感染症

こんなにも
海外とつながっている
私たちの生活



貿易

第二次世界大戦後、世界全体の貿易量が拡大。1970～80年代は日本が世界の貿易をリードしてきたが（輸入した資源や原料で高付加価値の製品を製造・輸出）、80～90年代に入ると、代わってアジアの新興国・地域が台頭。それに伴い、日本の輸出入相手も半分近くがアジアとなっている。



貿易相手の
約半数が途上国

◆途上国からの輸入上位品目

品目	1位	2位	3位
ノートパソコン	中国 99.8%	インド 0.1%	フィリピン 0.1%
天然ゴム	インドネシア 76.8%	タイ 21.2%	ベトナム 1.2%

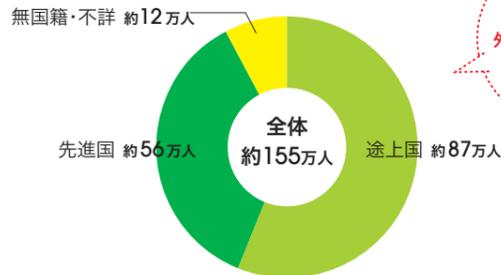
国内に流通する
パソコンは約5割
天然ゴムは
9割以上が輸入



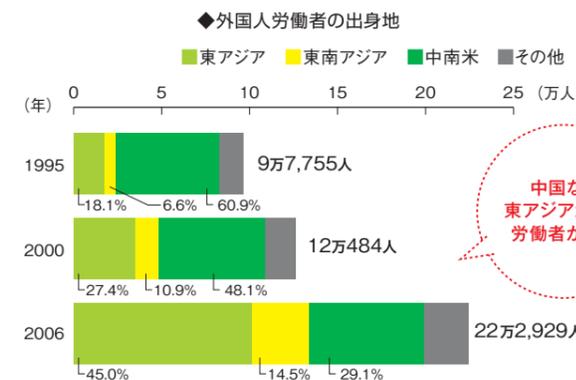
ヒト

技術革新によって航空機が大型化・高速化し、何万キロも離れた場所への移動が容易に。近年は、観光・就業・留学などのために中国を中心とするアジアからの渡航者が増加している。日本国内の外国人労働者（直接雇用）は、2000年では中南米が最も多かったが、その6年後には東アジアが追い抜いている。

◆日本に住む途上国出身者の割合（2005年）



日本に暮らす
外国人の半数以上
が途上国出身



中国など
東アジアからの
労働者が急増

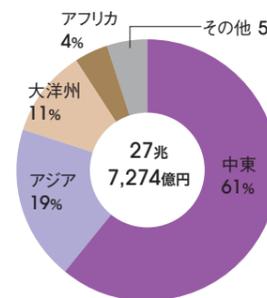


資源・エネルギー

原油、天然ガス、鉄鉱、銅鉱など資源・エネルギーに恵まれない日本は、そのほぼ全量を輸入に頼っている。そのうち、途上国への依存度は約半数。地域別では、中東が6割、アジアが2割という具合だ。また近年、携帯電話や発光ダイオードなど先端産業に不可欠なレアメタル（鉱物資源）の輸入量も増加。レアメタルが多く分布するアフリカへの依存度が高まっている。

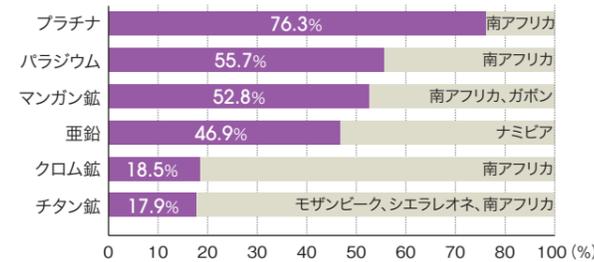
先端産業に
不可欠なレアメタル
の多くは
アフリカに依存

◆エネルギー資源の地域別輸入割合（2008年）

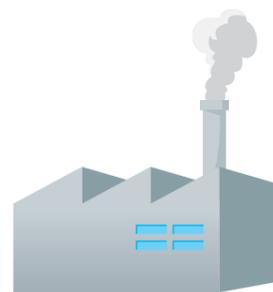


エネルギー資源
のほぼ全量を輸入、
うち6割が中東

◆日本のサハラ以南アフリカからのレアメタル輸入割合（2008年）



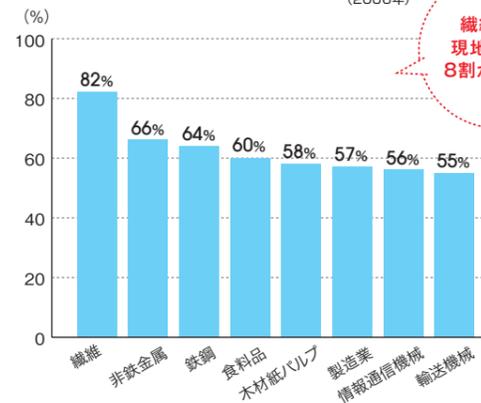
出典：財務省貿易統計



企業

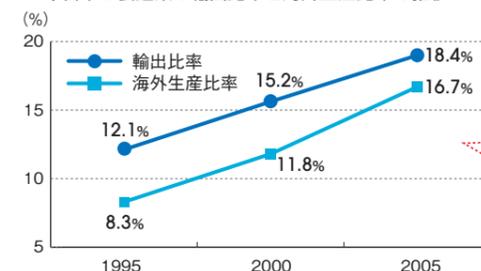
良質で安価な原材料や労働力を求め、多くの日本企業がアジアなどに現地法人を設立。繊維、非鉄金属、鉄鋼、食料品では、進出先の6割以上が途上国。また、製造業の海外生産比率は、2005年までの10年間で2倍以上に伸びている。

◆業種別海外現地法人における途上国の割合（2006年）



繊維業は
現地法人の
8割が途上国

◆日本の製造業の輸出比率と海外生産比率の推移



製造業は
売り上げの
2割を海外に
依存

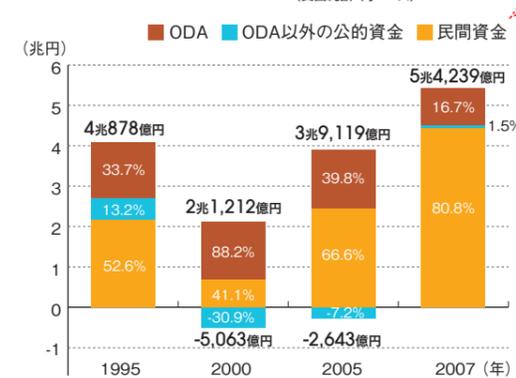


お金

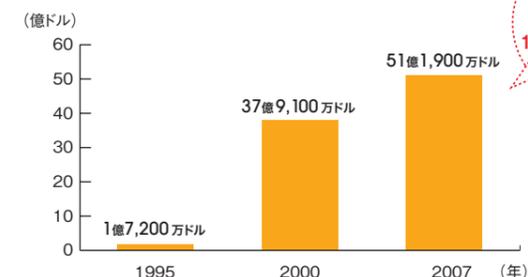
お金がボーダーレスに行き来するようになり、世界経済の一体化が進む。日本から途上国へのお金の流れは、ODA（政府開発援助）の予算が縮小される一方で、民間による対外直接投資が伸びている。また、日本国内への投資額も増加。対外直接投資と比べれば規模は小さいが、2007年までのわずか10年間で30倍にまで拡大している。

1997年
アジア通貨危機で
民間資金は一時減少
2002年以降
増大

◆日本から途上国へのお金の流れ（支出純額：円ベース）



◆途上国から日本への直接投資残高



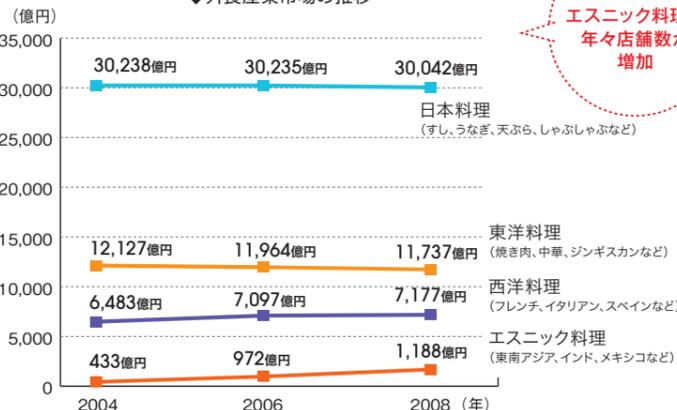
途上国からの
直接投資
10年間で30倍に



文化

西洋社会をモデルに発展してきた日本は、文化面でも欧米の影響を大きく受けているが、最近ではさまざまな途上国文化が日本に浸透してきている。例えば、エスニック料理への興味関心の高まりを受けてエスニックレストランが増加。また、食に関係する単語をはじめ、途上国の言葉を語源とする日本語も増えている。

◆外食産業市場の推移



エスニック料理は
年々店舗数が
増加

途上国由来の
カタカナが
いっぱい

◆途上国に由来する日本語（一例）

アルカリ	(アラビア語)
オクラ	(西アフリカ地方語)
カシュー	(南米インドイオ語)
キオスク	(トルコ語)
キセル	(カンボジア語)
ゴム	(エジプト語)
メンタイコ	(朝鮮語)